

# タンク停水弁

YY - 65

## 取り扱い説明書

### 項目

1. 概要
2. 特長
3. 仕様
4. 構造及び機能
5. 使用方法
6. 注意事項

## 1. 概要

このタンク停水弁は、水槽付消防自動車その他水槽付車輛の受水自動コントロール装置として我が国で初めて開発に成功したものです。

## 2. 特長

- 1) 大切な水資源のムダ使いを防止します。  
タンクの補給量を自動的にコントロールします。
- 2) 水タンクの破損を防止します。  
水タンクが無理に加圧されるのを防ぎます。
- 3) 省力化のお手伝いをします。  
自動的に開閉をコントロールします。
- 4) 逆止弁機能を持ち、従来からの標準艤装仕様としての逆止弁の代わりを果たします。

## 3. 仕様

- 1) 名称：タンク停水弁艤装
- 2) 型式：YY - 6 5
- 3) 質量：約 9.2 kg
- 4) 接続口：65 消防フランジ規格（外径 134、P.C.D110、4-M10 タップ）

## 4. 構造及び機能

### 1) 構造

タンク停水弁は図 1 に示すように、停水弁本体、シリンダー、水位センサーフロート、パイロットバルブより構成されます。

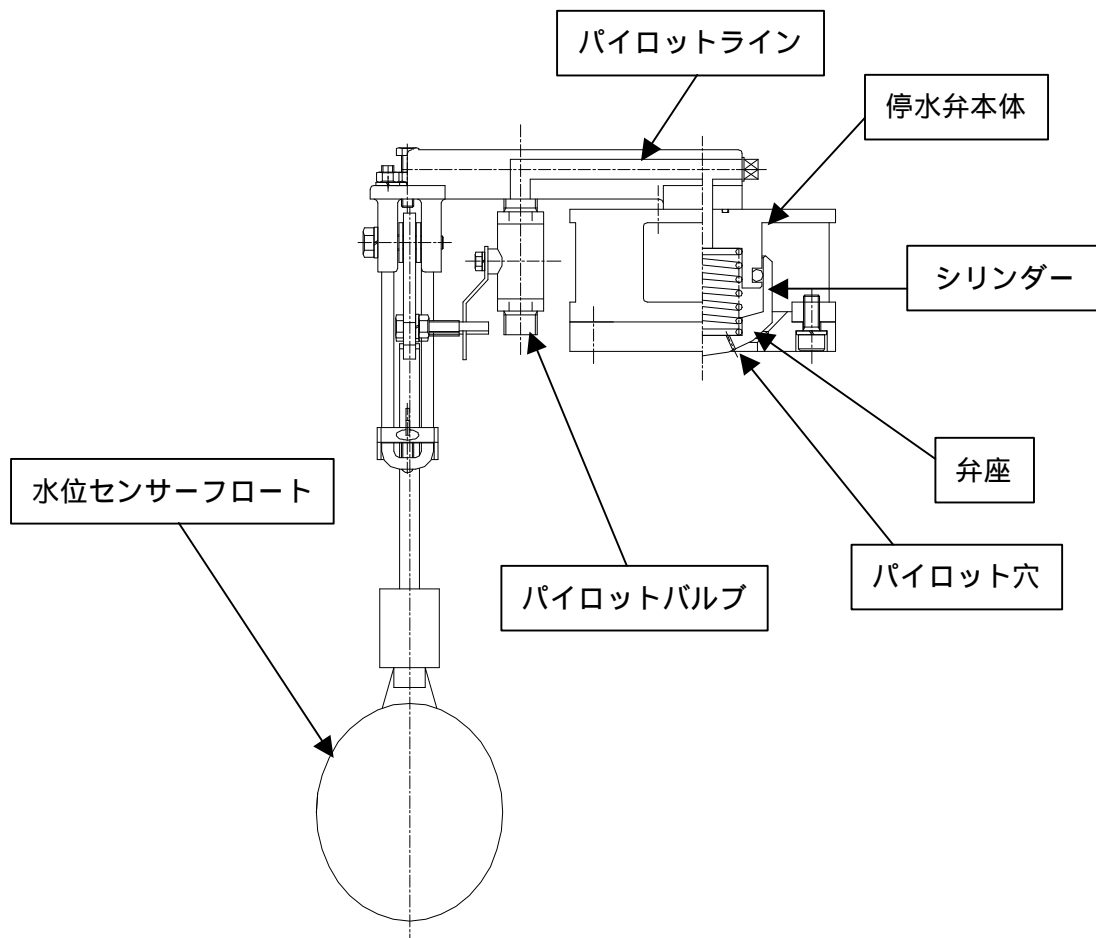


図 1

## 2) 機能

タンク止水弁は図2で示すように次の原理で作動します。

- 1) 水タンク内部の水位が高くなると、水位センサーフロートがこれを感じて、パイロットバルブを閉じる。
- 2) これにより止水弁内のシリンダーが作動し弁座を閉鎖し、水の受給を停止させオーバーフローを防止する。
- 3) 又、水位が低下すると、前述と逆な作用によりタンクへの水補給を再開出来る。

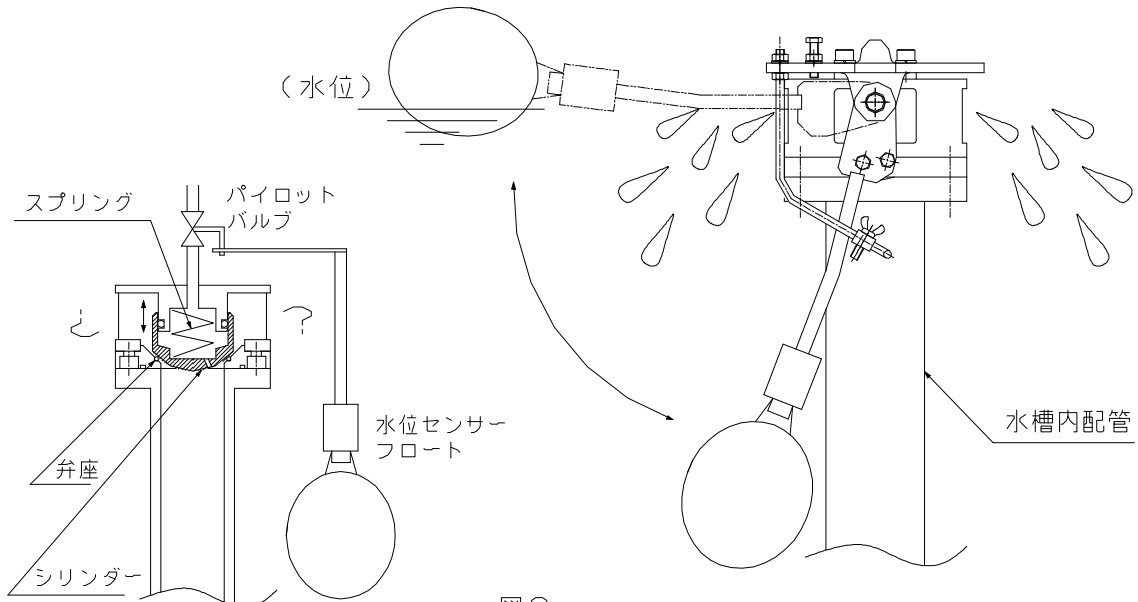
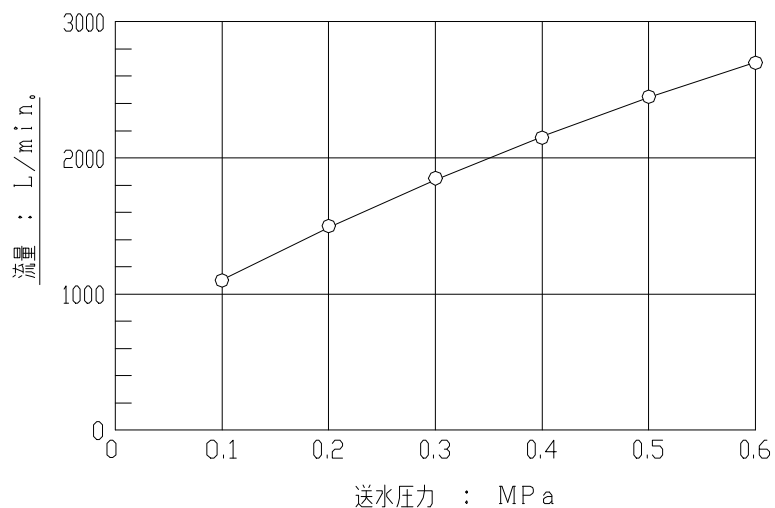


図2

## 3) 性能

性能表（流量）



## 5. 使用方法 取付においては

- 1) 図3の寸法を考慮の上、水タンクの内部の立ち上げ配管の位置及び高さを決めて下さい。
- 2) この機器は、水槽の逆止弁の機能を持ちます。逆止弁の代わりに M10 ボルト×4 本により付属の Oリングを挟んで取り付けて下さい。  
(ボルトはステンレス製をご使用下さい。)
- 3) この際、水位センサーフロートが水槽内で差し障りなく上下運動が出来ることをご確認下さい。
- 4) 電食防止の為、付属の亜鉛板を取り付けて下さい。

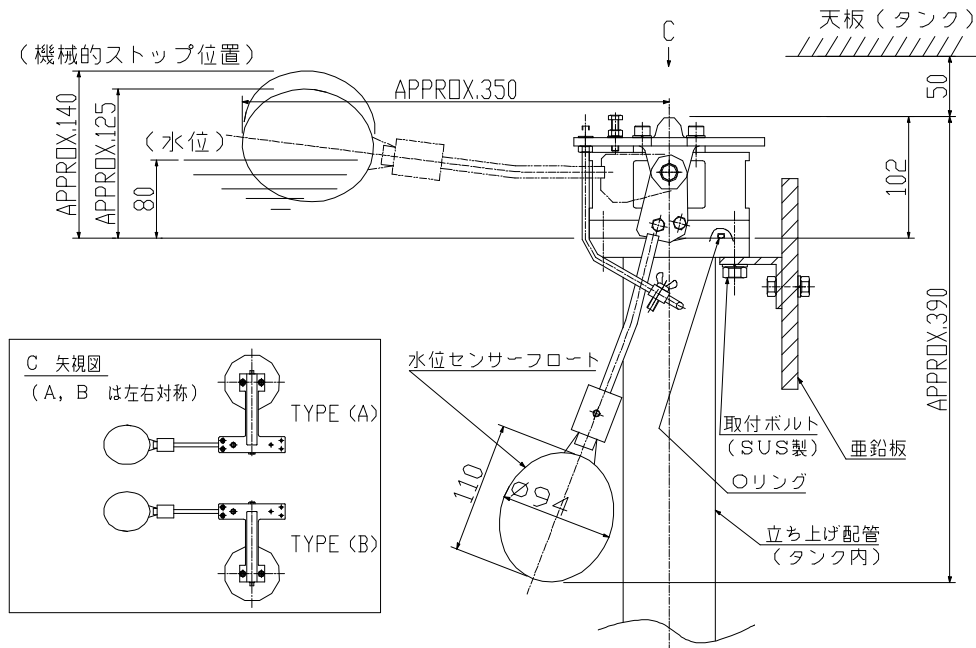


図3

6. 注意事項

1) 保守・点検

1. 水位センサーフロートの上下作動がスムーズかどうかを確認して下さい。
2. 次の各作動部へのグリースアップを行って下さい。
  - (1) パイロットバルブのボールシート及びその開閉レバー取付部
  - (2) 水位センサーフロートのアーム取付部
  - (3) 停水弁本体とシリンダーとのスライド部
 

古くなったグリースは拭き取り新しく塗り直して下さい。その際、耐水性グリースをご使用下さい。
3. シリンダーのパイロットライン(穴)に、ゴミ等の付着のないことを並びに流路詰まりのないことをご確認下さい。
4. 冬季においては、タンク内部で凍結の可能性がある為、上記点検を実施して下さい。

2) 使用上の注意

使用の際に下記の現象が起きたときには再点検して下さい。

現象	原因	処置
タンクの水が積水口から漏れてくる	停水弁座か、シリンダーのOリングにゴミが付着している	分解しゴミを取り除く
	上記の何れかが損傷している。	新しい部品と交換する
積水作業中、水が止まらず溢れ出す	水位センサーフロートが水没したまま浮かばない	保守点検にて 1.、2.(2)の励行
	パイロットバルブが閉止状態にも関わらず漏れている	保守点検にて 2.(1)の励行か、交換
	停水弁座とシリンダーとの間にゴミ等の異物が噛み込んでいる	分解しこれを取り除く
	パイロットライン(穴)が目詰まりしている	分解し目詰まりを取り除く
タンクへ水が入らない	水位センサーフロートが上がったまま下りない	保守点検にて 1.、2.(1)、2.(2)の励行

\* 尚上記点検の際、部品交換が必要なときは弊社純正品をお求め下さい。

必要な場合以外は、絶対に分解しないで下さい。

分解した場合は、元通りに組み立てて下さい。特に、ボルト、ナット等は緩まないよう締め付けて下さい。

\* 万一、不適切なご使用による事故等が発生しましても責任を負いかねます。